

3 評価委員の意見に対する対応

これまでの事務点検・評価において、評価委員よりいただいた意見に対する対応状況を下記のとおり区分して示します。

区分	説明
○	意見に対する取組を実施しているもの。
△	意見に対する取組みについて検討しているもの。
×	未対応のもの。

(1) 学校教育分野

令和4年度事務点検・評価（対象期間：令和3年度）

施策	評価委員の意見（抜粋）	対応状況	区分
1-1 主体的に学ぶ力の向上	<p>ICT支援員配置 授業支援を継続していくことには、いくつか課題もある。一つは支援員の配置時数である。ギガタブは学校へ導入されたばかりであり、その課題も実践が増えるに従いこれから見えてくる。令和3年度の支援員増員により、少しずつ操作が分かり、何が出来そうか見えてきたことを、実現させていくために、今後もICT支援員配置を含め、学校のニーズを踏まえた支援体制を継続していく必要があるのでないだろうか。</p>	<p>令和4年度はGIGAスクール運営支援センターを設置し、ICT支援員派遣事業を行うことで、各学校のニーズを踏まえた支援を実施しました。令和5年度も本事業を行い、学校への支援体制を継続していく予定です。そして、各学校の校内推進者と共に進めていくことで、持続可能な校内体制の確立を目指していきます。 (教育センター)</p>	○
1-1 主体的に学ぶ力の向上	<p>ICT支援員配置 各校で支援員と教員の共同で作成したギガタブの教材は、それぞれにあるようだ。しかし彼らが相互に知らないままとなっていることもあり、類似のものをそれぞれで作成していたりすることもあるようだ。実践を重ねる中で、ICTの活用についても教員や児童生徒が求めるレベルに変化も生まれ、さらに機能等も変わる。各授業者が必要性を感じた際に他の学校で作成したものを使うことができたりすると、より活用も進むであろう。</p>	<p>令和4年度は、ICT支援員向けの研修会を実施したり、情報交換ができる場をシステム上に設けたりすることで、各学校のギガタブの活用方法や使用した教材を共有しました。今後も各学校で使える実践例や教材を増やし、共有していきます。 (教育センター)</p>	○
2-1 豊かな心の育成	<p>オリンピック・パラリンピック教育の推進 視察校の授業では、資質・能力を基盤とした学びの具体的な様子が見られたが、学校間や教員間での事例や実践の共有、教育的な価値や意味を見出す場や時間があることで、質を保障した継続に繋がるだろう。</p>	<p>小学校、中学校、特別支援学校の他校種間によるパラスポーツ交流会を開催し、学校間での実践の共有を図りました。 小学校、中学校、特別支援学校の教職員向けにパラスポーツ実技研修を開催し、教職員間での実践の共有及び教職員の指導力向上を図りました。 (企画課)</p>	○

(2) 生涯学習分野

令和4年度事務点検・評価（対象期間：令和3年度）

施策		評価委員の意見（抜粋）	対応状況	区分
1-1	生涯学習の普及啓発	<p>電子書籍の導入</p> <p>市民の多くが電子書籍にアクセスできるよう、その利用の仕方の啓発・普及が求められる。公民館図書室を含むすべての担当者が現場で電子書籍へのアクセス方法を市民に伝えられる知識を有することが望ましい。そのためには、関係職員に対する組織だった伝達講習が期待される。</p>	<p>令和3年度に公民館図書室を含む関係職員に講習を実施しました。 (中央図書館情報資料課)</p>	○
1-1	生涯学習の普及啓発	<p>公民館の管理運営</p> <p>地域にこのような学習拠点があることをより多くの市民が知り、公民館が地域の中核施設として積極的に活用されることが望まれる。</p>	<p>公民館に対する理解と関心を高め、利用を促すために、あらゆる機会と場を捉えて、啓発や広報活動を実施しました。公民館だより等は、いろいろ工夫して、単なるお知らせだけに終わらないよう学習活動の現状や成果の紹介、地域の課題や住民の生の声を取り上げたり、地域のニュース性のあるものを盛り込み、公民館に親しみを持たせ、活動への参加を促し、コミュニティづくりの拠点としての機能を高めることに努めました (生涯学習振興課)</p>	○
1-2	学習環境の整備	<p>電子書籍の導入</p> <p>今後、電子書籍の充実にあっては、市民の利用促進の方途や学校教育への教材提供といった方向性も検討されるべきことである。</p>	<p>市民の利用を促進するため、ホームページやSNS等で情報を発信しています。 学校教育への教材(青い鳥文庫100点)を提供しています。 (中央図書館情報資料課)</p>	○
1-2	学習環境の整備	<p>公民館の管理運営</p> <p>公民館が地域の学習拠点として市民にとって居心地の良い空間であるために、施設整備に対する経費配分の工夫は今後も求められることであろう。</p>	<p>社会教育施設としての機能のほか、地域住民に親しまれ、気軽に利用できる施設となるよう、トイレの改修やスロープの設置等の修繕を実施しました。今後も計画的に施設の修繕を行い、どのような利用者の方でも安心して気軽に利用できる環境づくりに努めます。また、既設公共施設の長寿命化及び、計画的な維持保全を行うための個別施設計画の策定を進めてまいります。 (生涯学習振興課)</p>	○